第１回

「佐野と佐野乾山について」

平成２９年７月９日

・講師：佐野乾山顕彰会　斉藤（さいとう）　謙二（けんじ）　氏

尾形乾山とは、江戸時代に京都で活躍した名陶工。本名は尾形深省、「乾山」とは今でいうところのブランド名にあたる。兄は国宝「紅白梅図屏風」などの作者として知られる尾形光琳。俵屋宗達、本阿弥光悦など、茶の湯の世界を背景としたはなやかな作品の作者を総称して「琳派（りんぱ）と呼んだりするが、乾山はその中でも色絵で表現された花鳥風月や詩歌を題材とした画や書を器に表した作風で人気がある。

その乾山が、当地佐野を訪れていたことが明らかになったのは、昭和１７年に遡る。その足跡を辿りつつ、佐野市での出来事を今に伝える。

○参加者の感想・意見について（主なもの）

・乾山について、今までは名前だけは知っておりましたが、今回の勉強にて詳しく解り、大変有意義でありました。
・とても良かった。窯跡を見てみたい。
・私は、現在壬生町でボランティアを行っており、尾形乾山を説明する場所（常楽寺で）があるので、より深く学びたいので講演を聞きに来ました。